

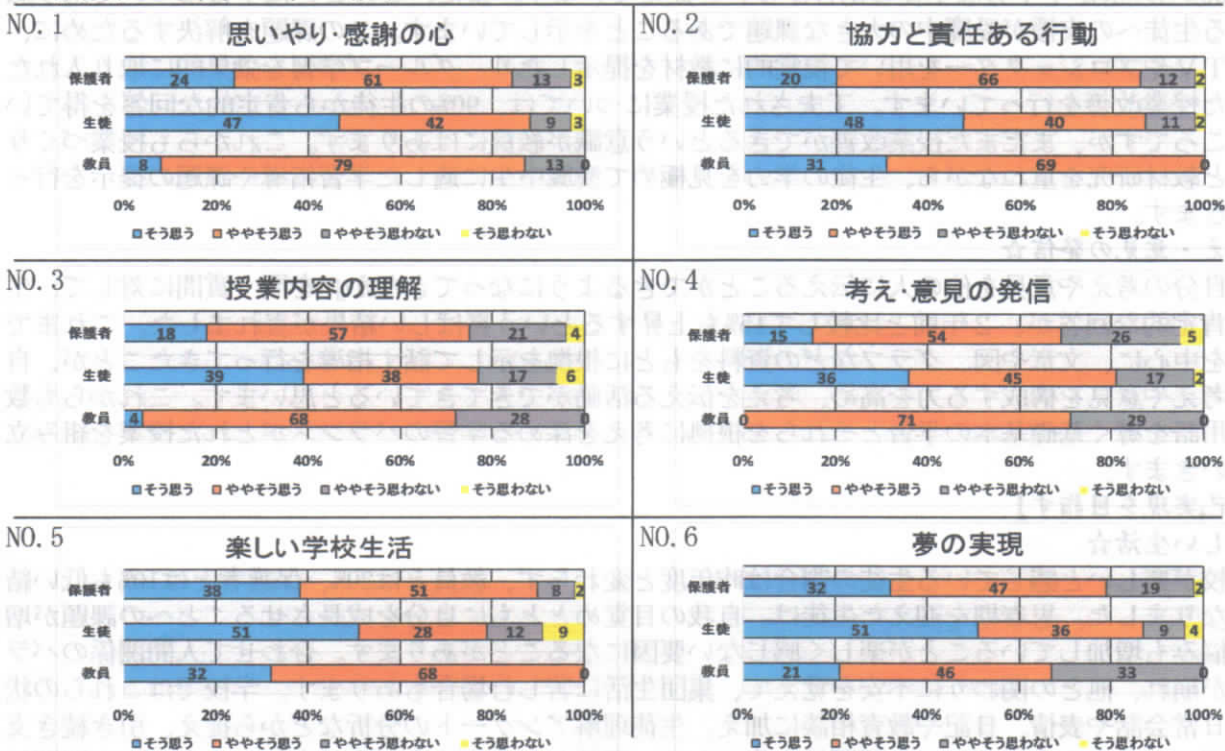


教育活動を振り返って

平成28年度教育活動アンケートにご協力いただきありがとうございました。保護者・地域の皆様からいただいた回答をまとめ、その集計結果を参考にしながら来年度のよりよい教育活動に向けて全職員で検討しました。また、学校評議員会で委員の皆様からもご意見をいただきました。以下、教育活動アンケートの主な結果と分析を報告します。

学校評価質問項目の中から、本校の学校教育目標「心豊かに 自ら学び 自己実現を目指す生徒」の達成の指標となる項目を中心に保護者、生徒、教員の三者を比較しました。

◇ 保護者・教員・生徒の結果から



生徒用の設問と26年度、27年度、28年度の肯定的な回答割合

No	アンケート内容	H26	H27	H28
1	あなたは、思いやり、感謝の心を持ち、仲間を大切にする雰囲気を作ろうとしていますか。	82%	85%	87%
2	行事や委員会活動・係活動などに進んで参加し、周囲と協力し、責任をもって役割を果たそうとしましたか。	82%	88%	88%
3	あなたは、授業の内容を理解していますか。	77%	81%	80%
4	話すことや書くことを通して、自分の考えや意見を他の人に伝えることができるようになってきましたか。	66%	77%	81%
5	あなたは、学校が楽しいですか。	74%	79%	79%
6	あなたは、進路学習（職場体験、高校調べ等）を通し、自分の進路を自分で決めようとしていますか。	78%	85%	87%

※数値は「そう思う」と「ややそう思う」をあわせたもの

【心豊かに】

☆思いやり・感謝の心☆

「思いやり、感謝の心を持ち、仲間を大切にする雰囲気を作ろうとしているか。」という問いでは肯定的な回答が2年間で5%増加しました。相手のことを気遣ったり、素直に「ありがとう」の言葉を発する生徒が多くおり、家庭や地域で他との良い関わり方を学ばれていることが分かります。学校では昨年度から道徳を毎週学年で揃えて行ったり、教室に道徳の振り返りができるコーナーを設けたりして、心の耕しを継続してきました。来年度からは小学校と連携を図り、9年間を見通して愛鷹の子ども達に特に身につけさせたい道徳的価値を重点に、共通した取り組みを進めていきます。

☆協力と責任ある行動☆

「行事や諸活動に進んで参加し、周囲と協力し、責任をもって役割を果たそうとしたか。」という問いに対する肯定的な回答が88%と高い値であり、行事や日常の活動でよく役割を果たしている姿に感心することが多い1年でした。特に今年の生徒会は本部、各委員会が生徒玄関前や学年廊下に工夫した掲示物を貼って活動の見える化に務めました。そのことで、生徒による自治活動が促進されました。来年度も鷹根祭の取り組みや常時活動を通して役割を果たす姿を称揚して、生徒の意欲や主体性を高めていきます。



【自ら学び】

☆授業内容の理解☆

20%の生徒から授業での理解が不十分であるという回答があり、授業の様子やテストの結果から教員の30%も理解が不十分な生徒の割合が多いと捉えています。また、このことは学習について困り感のある生徒への支援が愛鷹中の大きな課題であることを示しています。この課題を解決するために、大型TVやプロジェクターを用いて視覚的に教材を提示したり、グループ学習を効果的に取り入れたりした授業改善を行っています。工夫された授業については、90%の生徒から肯定的な回答を得ているところですが、まだまだ授業改善ができるという意識が教員にはあります。これからも授業づくり研修と教材研究を重ねながら、生徒の学力を見極めて愛鷹中生に適した学習指導や課題の提示を行っていきます。

☆考え・意見の発信☆

「自分の考えや意見を他の人に伝えることができるようになってきたか」を問う質問に対して、生徒の肯定的な回答が、2年前と比較して15%も上昇するという喜ばしい結果が表れました。これまで授業を中心に、文章や図、グラフなどの資料をもとに根拠を示して話す指導を行ってきたことが、自分の考えや意見を構成する力を高め、考えを伝える活動ができてきていると思います。これからも数値や用語を導く基礎基本の学習とそれらを根拠に考えを深める学習のバランスがとれた授業を組み立てていきます。

【自己実現を目指す】

☆楽しい生活☆

学校が楽しいと感じている生徒の割合は昨年度と変わらず、教員とは20%、保護者とは10%も低い結果となりました。思春期を迎えた生徒は、自我の目覚めとともに自分を成長させることへの課題が増え、悩みも増加していることが楽しく感じない要因になることがあります。合わせて人間関係のバランスが崩れ、他との関わりに不安を覚えて、集団生活に苦しみ場合もあります。学校ではこれらの状況を日常会話や表情、日記や教育相談に加え、生徒理解アンケートの分析などから捉え、引き続き支援を図っていきます。近年、人間関係を作ったり、調整したりする力が注目されています。人間関係作りプログラムなどを計画的に活用して、学校という集団生活の中で良好な関係を築ける調整力を高めていきます。

☆夢の実現☆

進路学習、進路決定については、肯定的な回答が2年間で10%上昇しました。1年生では、1日職業体験を無くしたことの影響を懸念していましたが、例年に比べて大きな差はありませんでした。また、3年生は肯定的な回答が大変高い値となりました。その要因として、子どもと保護者・教員との良好な関係に加え、今年は一一人の生徒が夏休みの高校体験入学へ公立・私立ともに複数校参加したことで、より具体性のある進路相談が進められたことが考えられます。明確に自分の意志を主張する材料を抛り所に、家庭での進路の話や教員への相談の場面では、96%の生徒が進路選択を自分で決定できたという主体的な自覚を持つことになりましたので、来年度も継続していきます。

